



南部町立南部中学校 学校だより 第10号

# 千一ム南部中

令和3年9月8日(水)

校長 望月和彦

## 第11回輝城祭まであと10日

8月27日に2学期が始まり、2週間ほどが経過しました。2学期がスタートすると同時に、生徒たちは生徒会最大行事である「第11回輝城祭」に向けて集中して取り組んでいます。ご存じの通り県内での感染症拡大のために、輝城祭は9月11日(土)から17日(金)に延期し、生徒やご家族、地域の方々などの健康と安全を考えて、「観客なし」とさせていただきました。子どもたちの活躍を見ることを楽しみにしていらっしゃるご来賓の方々、保護者や地域の方々、卒業生など大変申し訳なく思いますが、ご理解をお願いいたします。



第11回のテーマは「つながり」。夏休みから学年ごと、このテーマを意識した演劇を中心とした学年発表の準備と練習に取り組み、学級では学級の目標やイメージを表した学級旗づくりに取り組んでいます。また、学年間のつながりや関わりを大切にしたいという生徒会事務局の強い願いから、昨年度取り組めなかった部門の活動を復活し、文化、体育、展示装飾、広報、全校制作、吹奏楽、美術文芸の7つの部門に全校生徒が分かれて、学年の枠を越えて縦割り活動に取り組んでいます。



昨年度は1.5日(土曜日午後と日曜日)の輝城祭を1日(土曜日のみ)に変更しました。今年度も1日開催ですが、今回の輝城祭も本校の歴史に新たな1ページを刻む輝城祭となると私は考えています。その理由は2つあります。1つは新型コロナウイルスという大きな脅威の前に、簡単に「やらない」という選択をするのではなく、教師はもちろん、主人公である生徒たちが「どうしたら安全にできるか」を一生懸命考え、工夫して取り組んでいる点です。これは昨年度も同じでしたが、例年通りにはできないという点で、大変な苦労がある作業です。もう一つは、昨年度までの輝城祭は、保護者や地域の方々などの当日の参観者に楽しんでもらったり、喜んでもらったり、さらには感動してもらったりするという大きな目標がありました。今年度は外部からの観客はいません。会場には生徒たちと教職員だけです。その意味で、この輝城祭に向けた取り組みや当日の発表を、当日の生徒や教職員の満足感や達成感だけに終わらせず、生徒たち自らの今後の生活や成長に生かされるように、保護者や地域の方々など学校を支えてくれる方々に感謝の気持ち



が様々な形で伝えられるようにという願いが込められています。

9月1日には輝城祭の取り組みと絡めて生徒会主催の「身につけたい力交流会」開かれました。全校生徒を11のグループに分け、輝城祭の取り組みを通して自分が身につけたい力について意見交換をしました。1年生、2年生、3年生がそれぞれの立場で自分の考えを発表し、上級生は経験を通して下級生にアドバイスしてやる様子も見られました。(もちろん、全員がマスクを着用し、机には飛沫防止ガードをたて、コロナ対策をしながらの意見交換です。)簡単なように見えますが、1年生、2年生、3年生が学年を越えて自由に自分の考えを言い合える学校はそうはないと思います。本校の生徒たちの素晴らしいところです。輝城祭の中で身につけた力がその後の生活にいかされ、自分の成長につながる輝城祭にしようと思っ生徒たちは考えています。さて、どんな輝城祭になるか、今からとても楽しみです。



↑ 身につけたい力交流会

# 交通安全・防犯弁論大会

「南部警察署管内交通安全・防犯弁論大会」は例年、管内の身延・早川・南部中学校のいずれかが会場となり、会場の中学生が観客となって、その前で3中学校代表の弁士の生徒が、交通安全と防犯についての自分の考えを発表します。今年度はコロナ禍ということで、9月1日（水）に学校ごとに弁論のビデオ撮影が行われ、その映像を後日審査員が審査するという異例の形での実施となりました。本校からは、4名の生徒が出場しました。交通安全の部に出場した3年の佐野遥斗さんは、車に乗っていた自分が交差点での出会い頭の危険に遭遇した経験をもとにして、人々の交通安全に対する意識改革を訴え、1年の望月裕理さんは、中部横断自動車道の開通によって私たちの暮らしは便利になったが、スピードの出し過ぎによる重大事故が起きる危険性があることなどを訴えました。防犯の部に出場した3年の木内芽衣さんは、コロナ禍を利用した電話詐欺について、自分の家庭で詐欺を防いだ経験から、心配なことがあったら周囲の人に相談することの大切さを訴えました。2年の渡辺琉偉さんは、インターネットは人々の生活に欠かせない道具になったが、個人情報の流出などの危険性があり、正しい使い方を考えて利用する必要があることを訴えました。出場した4人は、コロナのために練習がなかなかできず不安な気持ちもあったと思いますが、当日は蒙軒ホールでビデオカメラに向かって堂々と自分の考えを述べていました。審査の結果、佐野遥斗さんが交通安全の部で最優秀賞を受賞しました。



## より良い授業づくり ～ICTの活用～



本校では、生徒たちにとって「楽しい授業」「わかる授業」を実施し、それによって一人一人の学力を向上させるために、「一人一実践」の取り組み（すべての教員が、自分の授業を他の教員に見てもらったり、他の教員の授業を見せてもらったりすることを通して、より良い授業づくりについて学び合い、一人一人の授業力を高めていく取り組み）を行っています。

9月2日（木）保坂伸也教諭の「一人一実践」の授業として、2Aの数学の授業を見せてもらいました。題材は「1次関数のグラフの特徴を調べよう」です。ウォーミングアップで連立方程式の小テストを行った後、本題に入りました。全員にChromeBook（一人一台のタブレット）を用意させ、インターネット上で関数のグラフが描けるサイトを開かせて、1次関数のグラフを描かせました。生徒たちが、 $y = ax + b$ のaやbに適当な数字を入れて式を入力すると、画面の座標平面上に自動的に直線が描かれます。aやbの数値を変えると直線の位置や傾きが変化します。座標平面上に直線を何本も描かせることで、1次関数のグラフの特徴を考えさせていました。最初は操作に時間がかかっている生徒もいましたが、徐々に操作にも慣れ、画面の座標平面にはたくさんの直線が描かれました。「aの値が0に近づくとグラフが横になる」とか「bはグラフがy軸を通る目盛りと同じだ」とか、時間の経過とともにグラフの特徴に気がつく生徒が増えてきました。その後、隣同士で意見交換の時間があり、「ぼくは〇〇だと思う」「そうか、なるほど」と教え合い、学び合う様子も見られました。1次関数のグラフを黒板やノートに描くには、目盛りを数え、定規を使いなが直線を引くのにかなりの時間が必要です。タブレットでこのサイトを使えば式を入力するだけで、あっという間に正しいグラフを描くことができます。こうした場面でタブレットなどのICT機器を使うことは、短時間で授業のねらいに迫ることができ、大変有効であると感じました。次の時間は、タブレット上で、自分が考えた一次関数のグラフの特徴を入力し、全員の考えを画面で共有しながら、一つ一つ考えが正しいかどうかを吟味していくそうです。とても、楽しそうな授業でした。

### ☆生徒が感染者や濃厚接触者になった場合の学習保障

生徒が感染者や濃厚接触者になると、登校したくてもできない状況となり、授業が受けられないことを心配している生徒や保護者がいると聞きます。学校としては、感染症のため登校できない生徒の学習については可能な限り保障したいと考えています。そのような状況が起きた場合、一人一台のタブレットを貸し出し、学校で行われている授業を家庭で見ってもらう方法を考えています。